

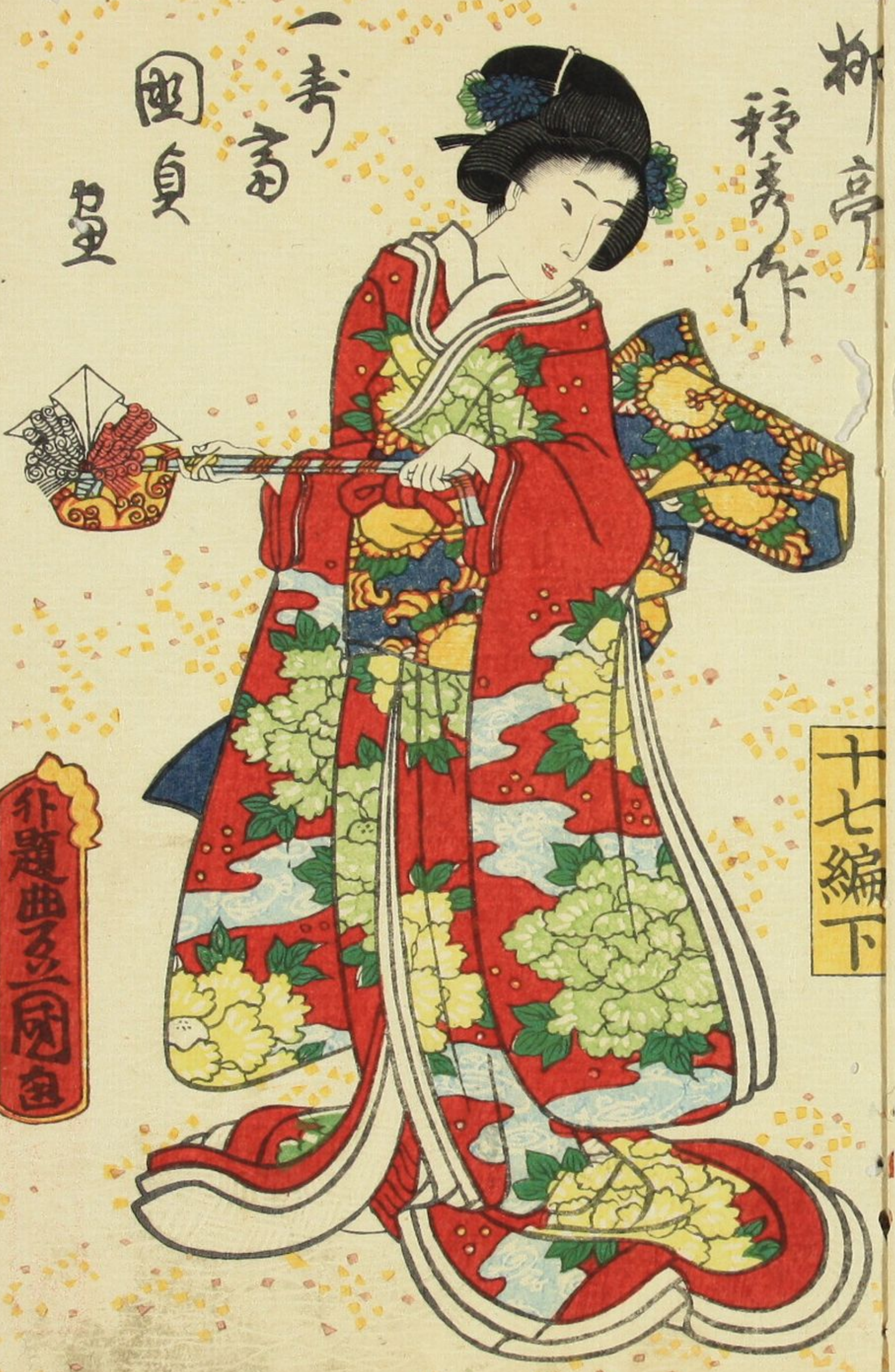
女郎遊可部  
俤

十七編上



錦昇堂  
秀梓

2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82



一考  
國貞  
畫

柳亭  
種秀作

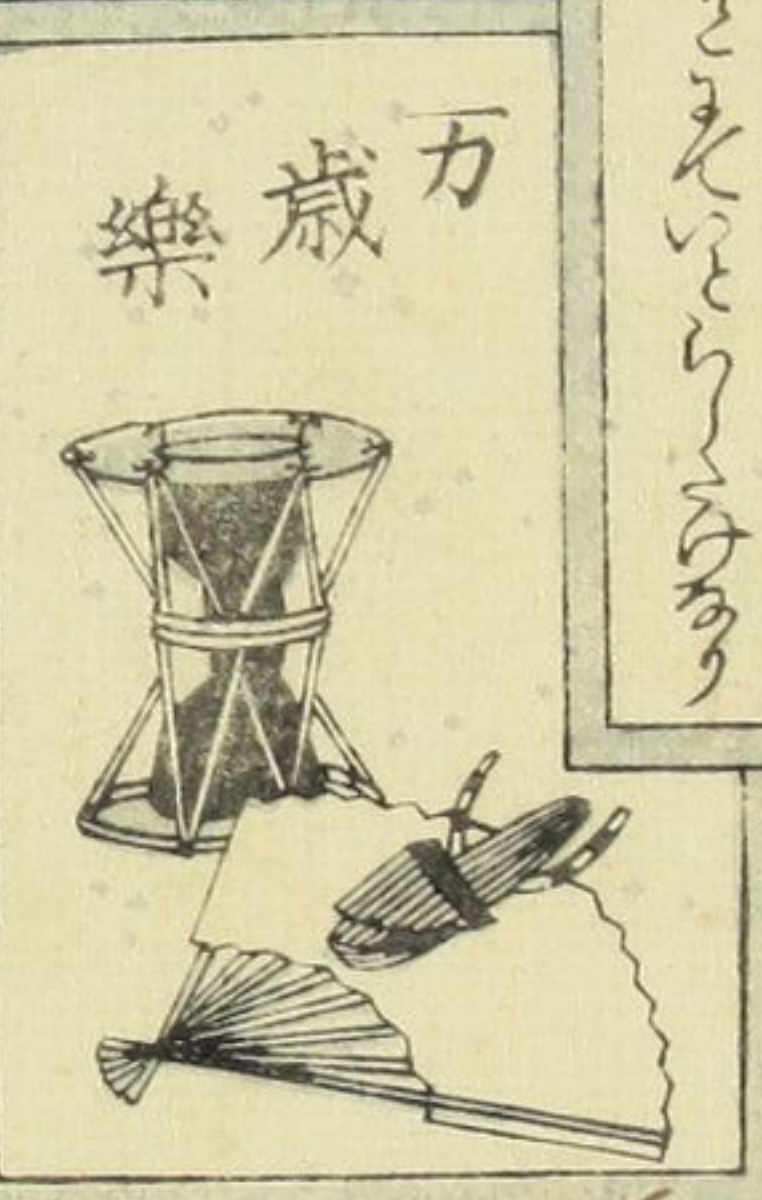
十七編下

外題曲五(國貞)



若菜下卷

右の大旅此四節若  
大折旅の二節若をアケ  
文のそんどうれきみまら  
ふりりまんさのくくいと  
ちいきれりたまいとらへひまら



其極の至

國貞  
画

才十七

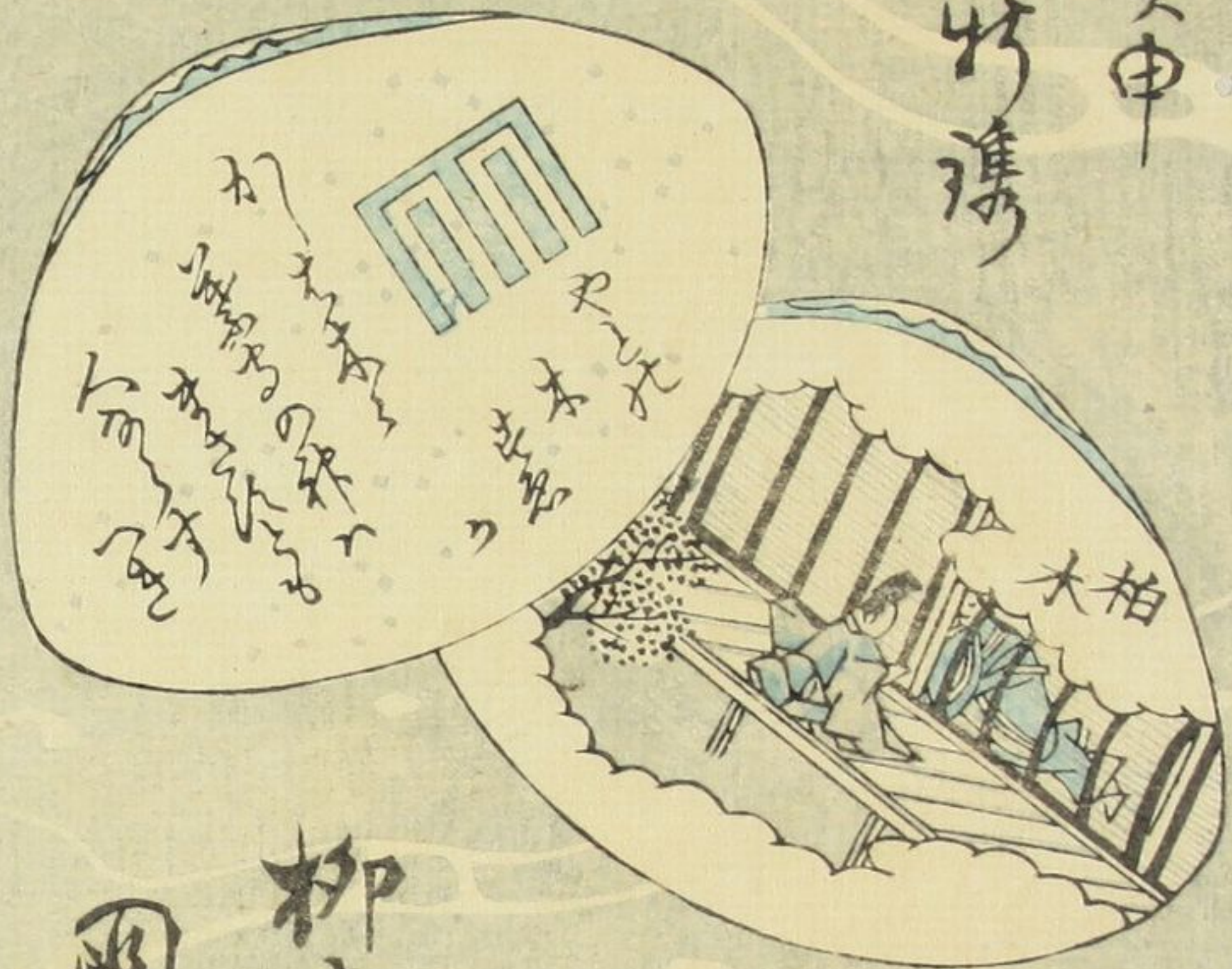
篇の二

終昇  
畫

九曜文庫

庚申

新張



鄙れ

面影

十七編下

柳亭作

笑考

圓貞画

屋板



一



或人の菰向ふ菜と菜との食せぬ梅の手際哉と庖丁家の妙處と穿らるるを  
 浅草海苔の最上の美味おれど徒灸と嚙のそゆて珍奇との賞翫の何れと紅藍  
 媛の詞花の室町小咲せ直衣野服の織文の外套袴の漆させ古今雅俗の寄せ物  
 も味美く人氣と取看諸君のお口小適ひの梅もぬ柳の手際あり今其後段を  
 調進するに師教の忌色縁と割烹ツル能ぬ相折理の亂造や鰯鮫の刺身血の滴る  
 らど絞るもぬ智慧臺辨厨囊へ餘喰拾はんあるをうりめて箸と下さんまぶら  
 何と柳本文の賀宴の度舞樂の興行必り此小代りに能猿樂カブキの所作  
 更さ取出せと水物細菊山茶花奇麗揃も又例のと厭そくや思めさんその  
 物と其のりので出さる却てをわらわらんの本編の舞樂と舞樂でまをせを繪  
 様の少異ある小潤沢のち乾物の推草于瓢と補景と由縁ら〜らえたるをう  
 と飲食仕立も古代の新理人を所とと稱しと問の巻の名は柏木小因ねるあり

安政庚申孟陞

柳亭種秀



柳亭種秀

若菜下の御賀ハ朱雀院の  
御五十比度ゆ々

由縁ゆ々いひ  
前武將義尚  
入道源四大僧正

此君ハ三年日前薨御ありと

作

△藤の方乃尾君此ゆりゆり  
藤壺の宮ハ源氏ゆりハ既  
薄雲の巻小薨御ありゆり

今不意用ニ達ハ師の遺賜の

新参

敷浪藝次

豊后







一、  
 二、  
 三、  
 四、  
 五、  
 六、  
 七、  
 八、  
 九、  
 十、  
 十一、  
 十二、  
 十三、  
 十四、  
 十五、  
 十六、  
 十七、  
 十八、  
 十九、  
 二十、



一、  
 二、  
 三、  
 四、  
 五、  
 六、  
 七、  
 八、  
 九、  
 十、  
 十一、  
 十二、  
 十三、  
 十四、  
 十五、  
 十六、  
 十七、  
 十八、  
 十九、  
 二十、

つぎあつたおとめは  
かみふくまきとてのち  
うへつらとて  
さのまひふとて  
倉千代 やと

里若春王とも

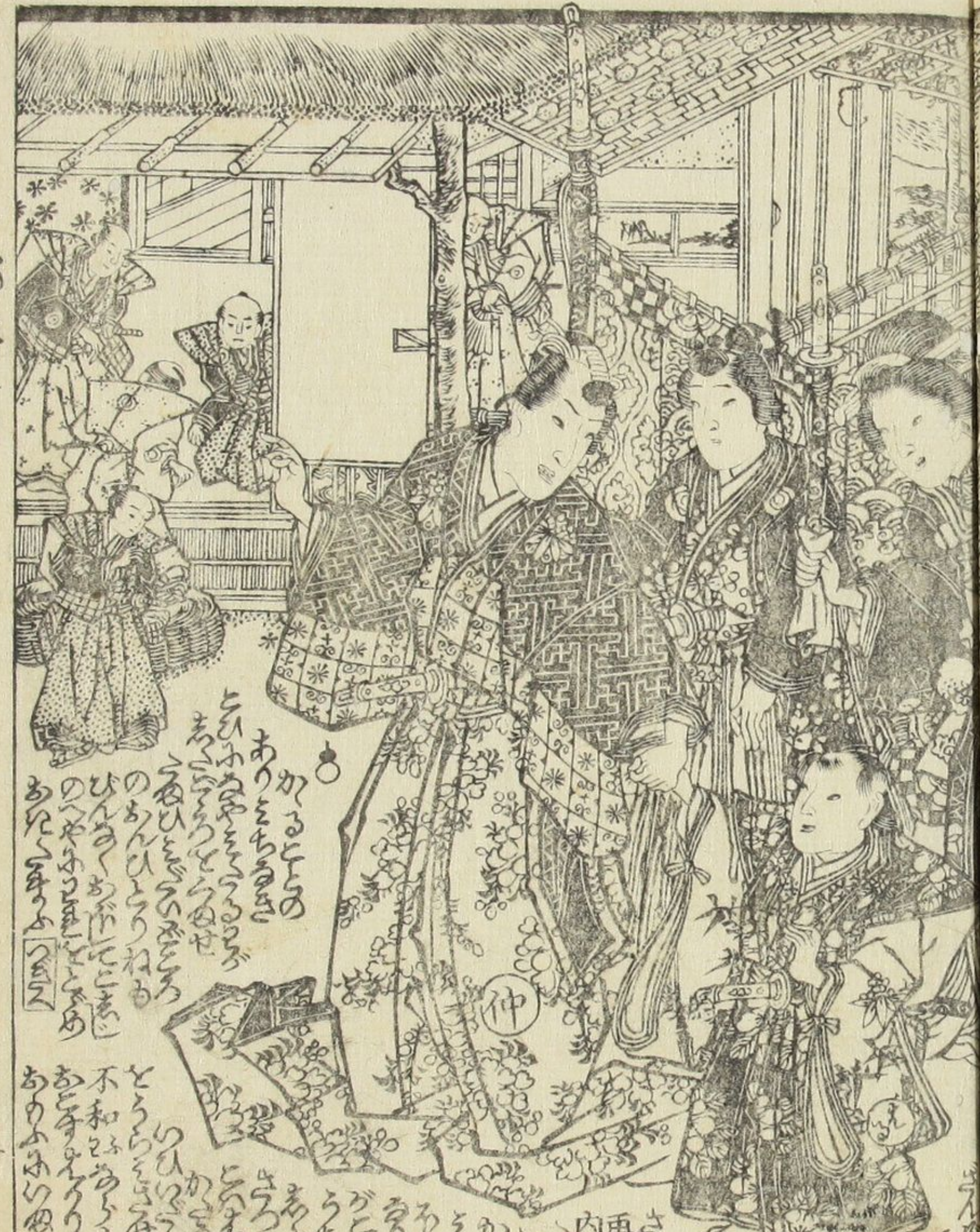
氏仲の

也子男



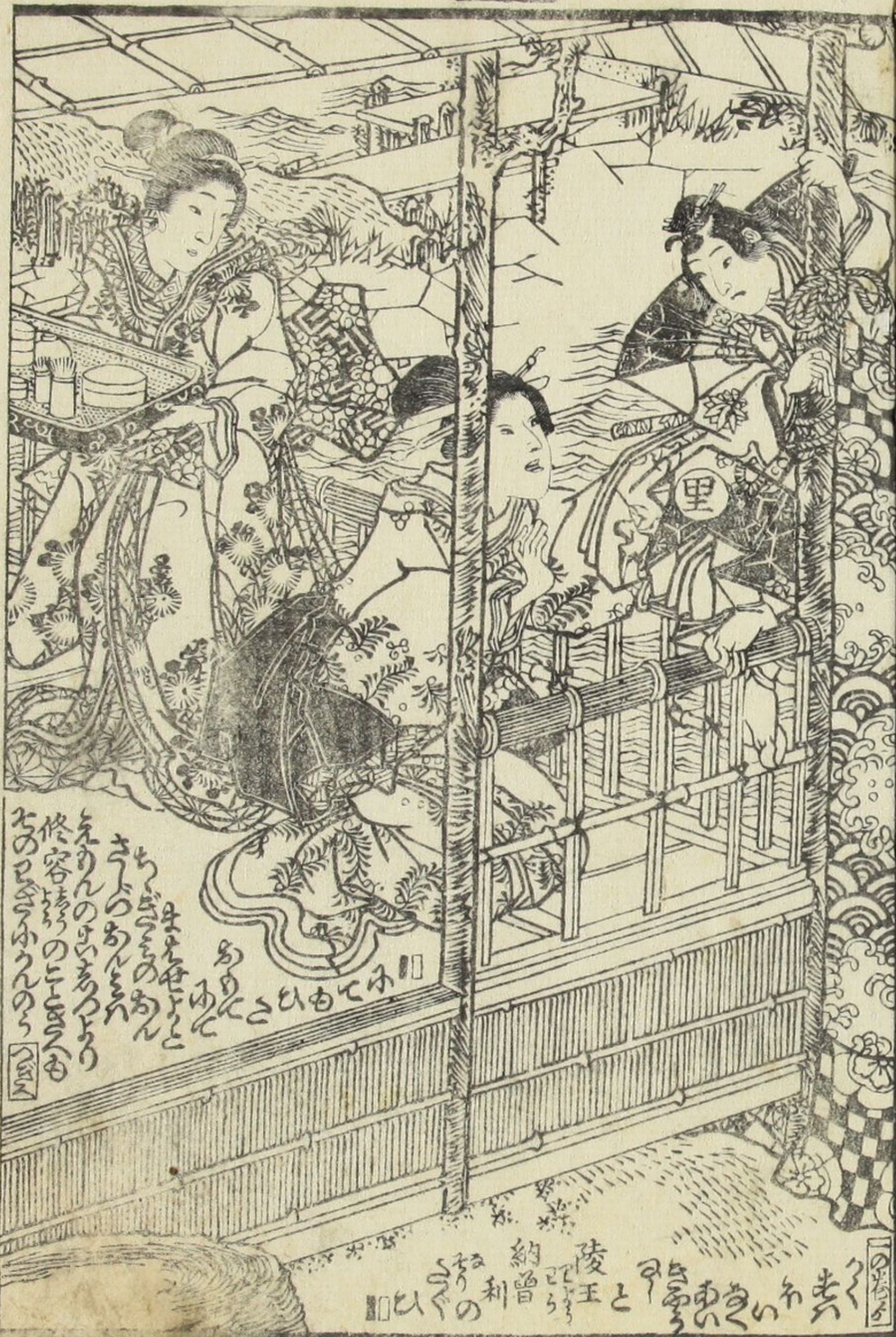
用せきのあひ  
あつたおとめ  
かみふくまき  
うへつらとて  
さのまひふとて

大内坊の  
やうすさ  
らん  
あつたおとめ  
かみふくまき  
うへつらとて  
さのまひふとて



あつたおとめ  
かみふくまき  
うへつらとて  
さのまひふとて  
倉千代 やと

あつたおとめ  
かみふくまき  
うへつらとて  
さのまひふとて  
倉千代 やと



あつては  
あつては  
あつては  
あつては  
あつては

約王と  
約王と  
約王と  
約王と  
約王と

あつては  
あつては  
あつては  
あつては  
あつては  
あつては  
あつては  
あつては  
あつては  
あつては



あつては  
あつては  
あつては  
あつては  
あつては  
あつては  
あつては  
あつては  
あつては  
あつては

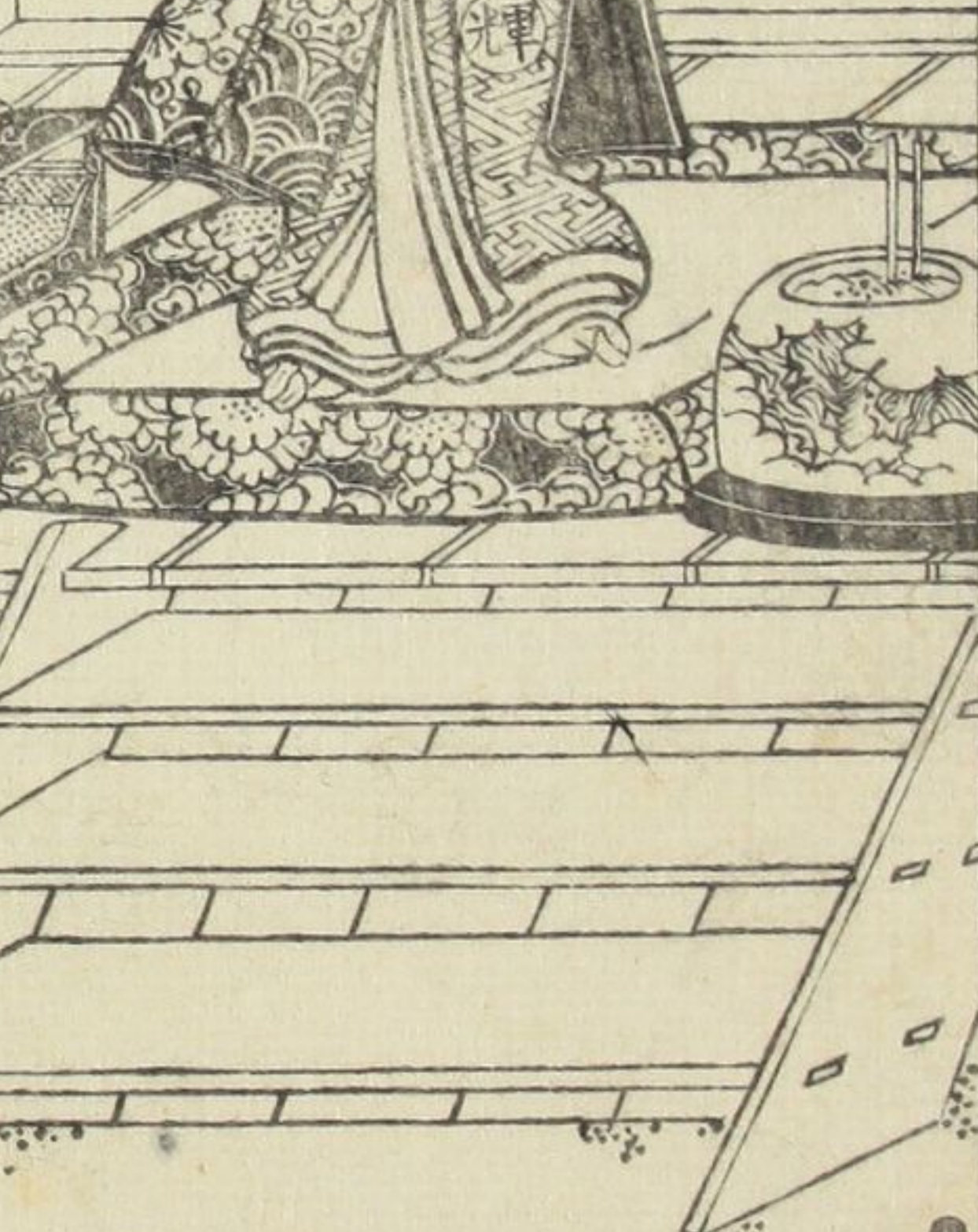
約王と  
約王と  
約王と  
約王と  
約王と





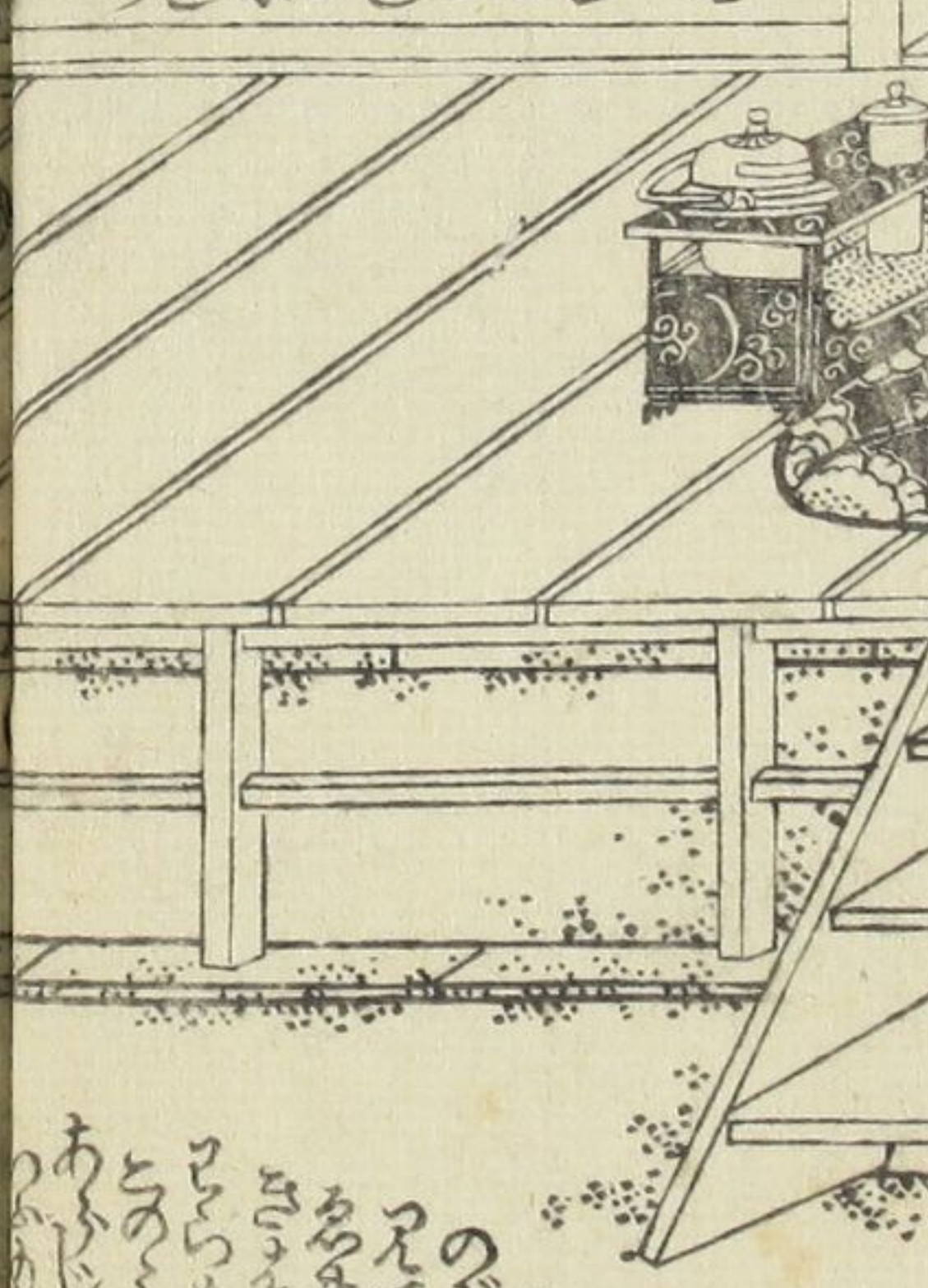


大平樂の喜春樂  
をのちつくみまひ  
ふみふみふみの日まをく  
られぬとくきん  
あつていん  
ひやうあふん  
かあれま  
さうらう  
夕月あか  
早大さ  
そのまきまひるさうも  
ひとあつてひと  
けいれのもまをさうま  
さうらのこのかた

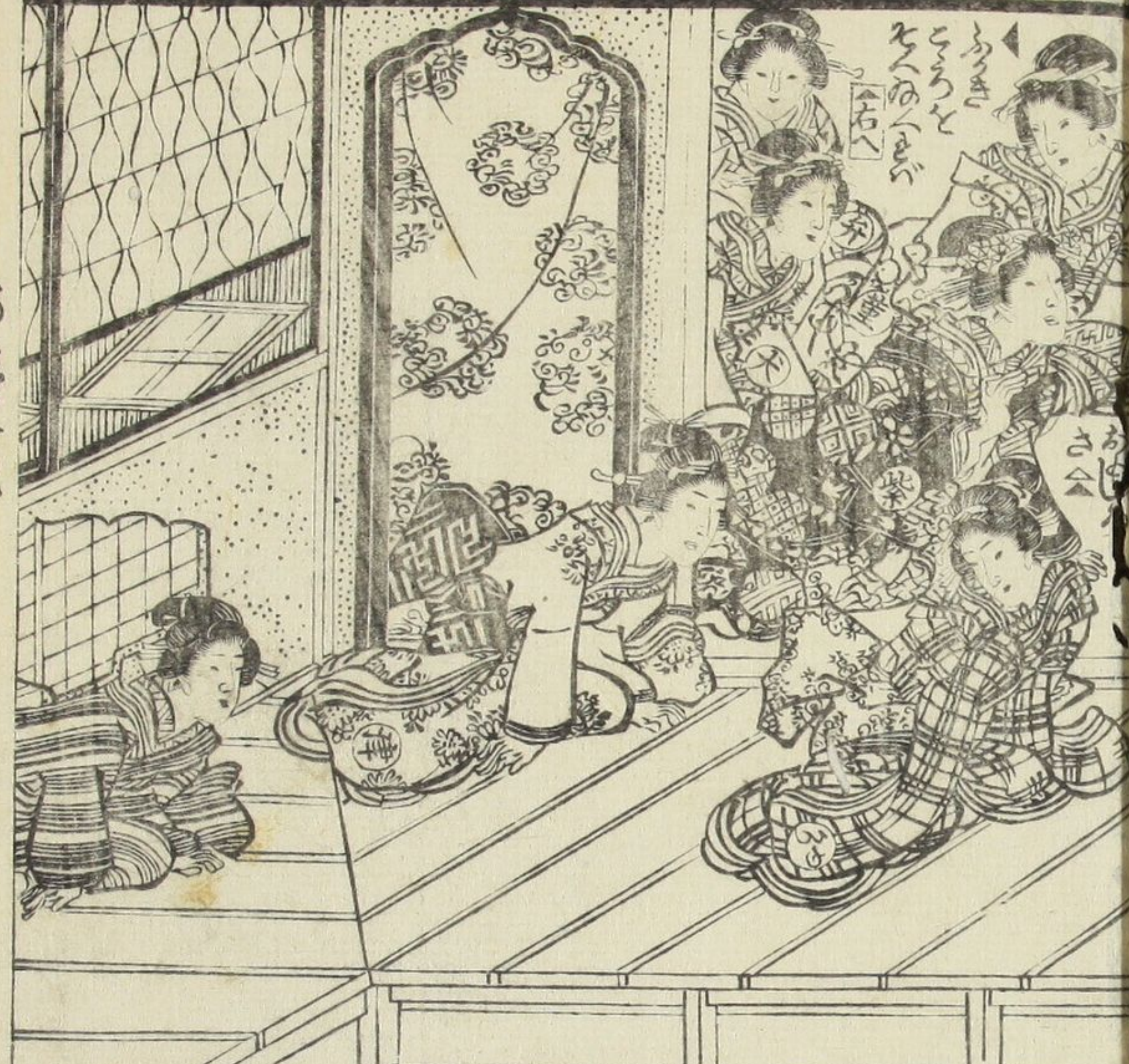


あつていん  
ひやうあふん  
かあれま  
さうらう  
夕月あか  
早大さ  
そのまきまひるさうも  
ひとあつてひと  
けいれのもまをさうま  
さうらのこのかた

あつていん  
ひやうあふん  
かあれま  
さうらう  
夕月あか  
早大さ  
そのまきまひるさうも  
ひとあつてひと  
けいれのもまをさうま  
さうらのこのかた



あつていん  
ひやうあふん  
かあれま  
さうらう  
夕月あか  
早大さ  
そのまきまひるさうも  
ひとあつてひと  
けいれのもまをさうま  
さうらのこのかた





3

梅のしるし

昔

大

四時五時...  
 六時七時...  
 八時九時...  
 十時十一時...  
 十二時...  
 十三時...  
 十四時...  
 十五時...  
 十六時...  
 十七時...  
 十八時...  
 十九時...  
 二十時...  
 二十一時...  
 二十二時...  
 二十三時...  
 二十四時...  
 二十五時...  
 二十六時...  
 二十七時...  
 二十八時...  
 二十九時...  
 三十時...

一  
 二  
 三  
 四  
 五  
 六  
 七  
 八  
 九  
 十  
 十一  
 十二  
 十三  
 十四  
 十五  
 十六  
 十七  
 十八  
 十九  
 二十  
 二十一  
 二十二  
 二十三  
 二十四  
 二十五  
 二十六  
 二十七  
 二十八  
 二十九  
 三十

一  
 二  
 三  
 四  
 五  
 六  
 七  
 八  
 九  
 十  
 十一  
 十二  
 十三  
 十四  
 十五  
 十六  
 十七  
 十八  
 十九  
 二十  
 二十一  
 二十二  
 二十三  
 二十四  
 二十五  
 二十六  
 二十七  
 二十八  
 二十九  
 三十

一  
 二  
 三  
 四  
 五  
 六  
 七  
 八  
 九  
 十  
 十一  
 十二  
 十三  
 十四  
 十五  
 十六  
 十七  
 十八  
 十九  
 二十  
 二十一  
 二十二  
 二十三  
 二十四  
 二十五  
 二十六  
 二十七  
 二十八  
 二十九  
 三十

一  
 二  
 三  
 四  
 五  
 六  
 七  
 八  
 九  
 十  
 十一  
 十二  
 十三  
 十四  
 十五  
 十六  
 十七  
 十八  
 十九  
 二十  
 二十一  
 二十二  
 二十三  
 二十四  
 二十五  
 二十六  
 二十七  
 二十八  
 二十九  
 三十

一  
 二  
 三  
 四  
 五  
 六  
 七  
 八  
 九  
 十  
 十一  
 十二  
 十三  
 十四  
 十五  
 十六  
 十七  
 十八  
 十九  
 二十  
 二十一  
 二十二  
 二十三  
 二十四  
 二十五  
 二十六  
 二十七  
 二十八  
 二十九  
 三十

# 國貞画

六条の御所はあはれなる御所なりはるか昔よりさかえりて  
あまのついでに御所なるを御所の御所とて  
あまのついでに御所なるを御所の御所とて  
あまのついでに御所なるを御所の御所とて  
あまのついでに御所なるを御所の御所とて  
あまのついでに御所なるを御所の御所とて

## 種秀乃作



のついでに御所なるを御所の御所とて  
あまのついでに御所なるを御所の御所とて  
あまのついでに御所なるを御所の御所とて  
あまのついでに御所なるを御所の御所とて  
あまのついでに御所なるを御所の御所とて  
あまのついでに御所なるを御所の御所とて



六条の御所はあはれなる御所なりはるか昔よりさかえりて  
あまのついでに御所なるを御所の御所とて  
あまのついでに御所なるを御所の御所とて  
あまのついでに御所なるを御所の御所とて  
あまのついでに御所なるを御所の御所とて  
あまのついでに御所なるを御所の御所とて

あまのついでに御所なるを御所の御所とて  
あまのついでに御所なるを御所の御所とて  
あまのついでに御所なるを御所の御所とて  
あまのついでに御所なるを御所の御所とて  
あまのついでに御所なるを御所の御所とて  
あまのついでに御所なるを御所の御所とて



ついでありもせの峰ありありをば  
 まつたまよふ春松  
 花らの七う  
 せらちまう  
 くれあま  
 こそあま  
 内木のあしがの  
 つひあらののま  
 くらくびん  
 うあらのあ  
 ありあ  
 この月まの五日  
 仁和寺のま  
 ありの五千の  
 花かろのい  
 なるまの  
 ころく五十  
 寺の御誦經  
 ありせさ  
 なるひら  
 ころあ  
 麻子詞毘盧遮那  
 まるの神変  
 經ありあ  
 なるも  
 の日あ  
 なる

かろのま  
 ありあ  
 ころあ  
 まるの  
 なるも  
 の日あ  
 なる

ついでありもせの峰ありありをば  
 まつたまよふ春松  
 花らの七う  
 せらちまう  
 くれあま  
 こそあま  
 内木のあしがの  
 つひあらののま  
 くらくびん  
 うあらのあ  
 ありあ  
 この月まの五日  
 仁和寺のま  
 ありの五千の  
 花かろのい  
 なるまの  
 ころく五十  
 寺の御誦經  
 ありせさ  
 なるひら  
 ころあ  
 麻子詞毘盧遮那  
 まるの神変  
 經ありあ  
 なるも  
 の日あ  
 なる

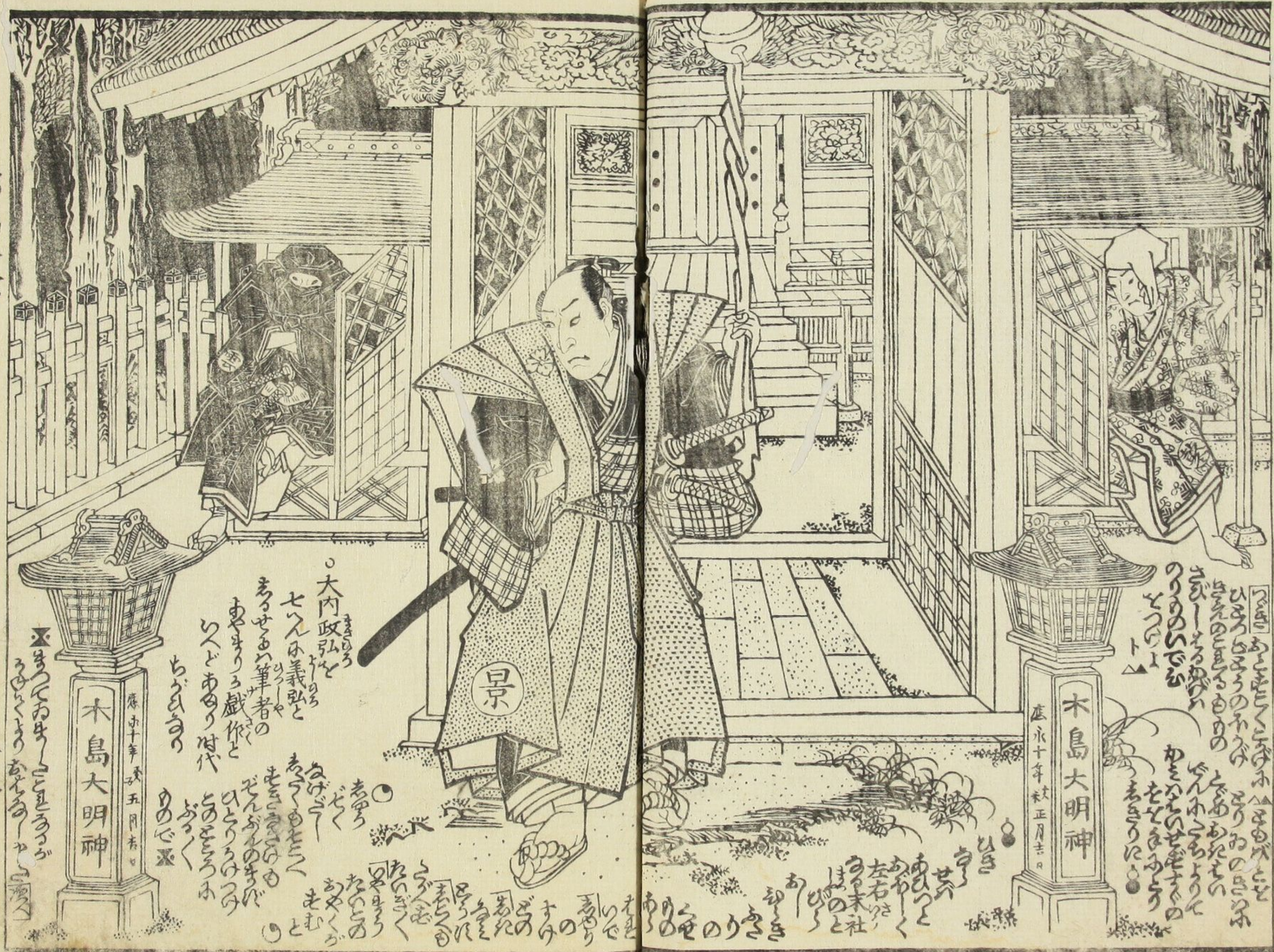


ついでありもせの峰ありありをば  
 まつたまよふ春松  
 花らの七う  
 せらちまう  
 くれあま  
 こそあま  
 内木のあしがの  
 つひあらののま  
 くらくびん  
 うあらのあ  
 ありあ  
 この月まの五日  
 仁和寺のま  
 ありの五千の  
 花かろのい  
 なるまの  
 ころく五十  
 寺の御誦經  
 ありせさ  
 なるひら  
 ころあ  
 麻子詞毘盧遮那  
 まるの神変  
 經ありあ  
 なるも  
 の日あ  
 なる

同 一

左のふ

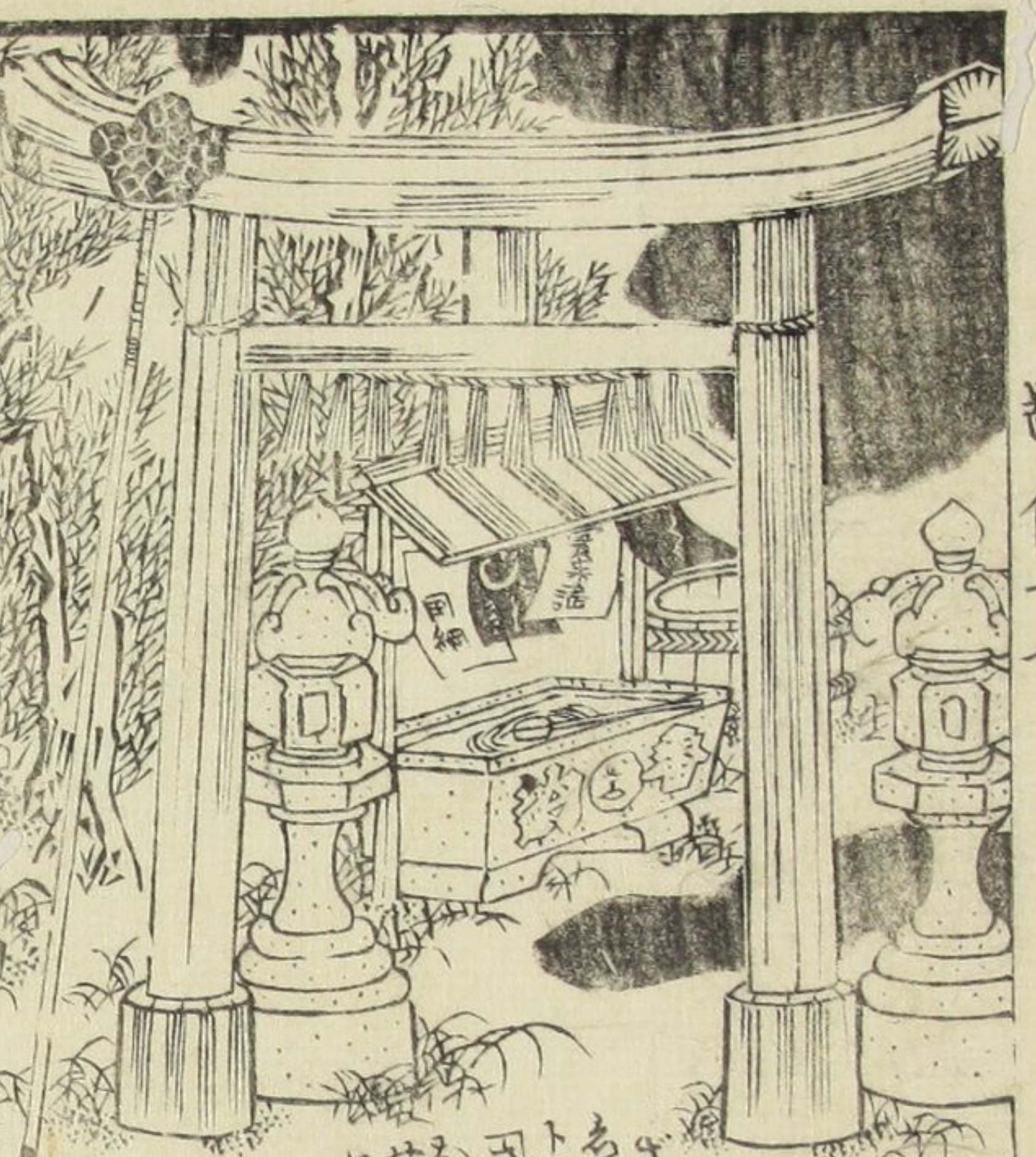
夜の



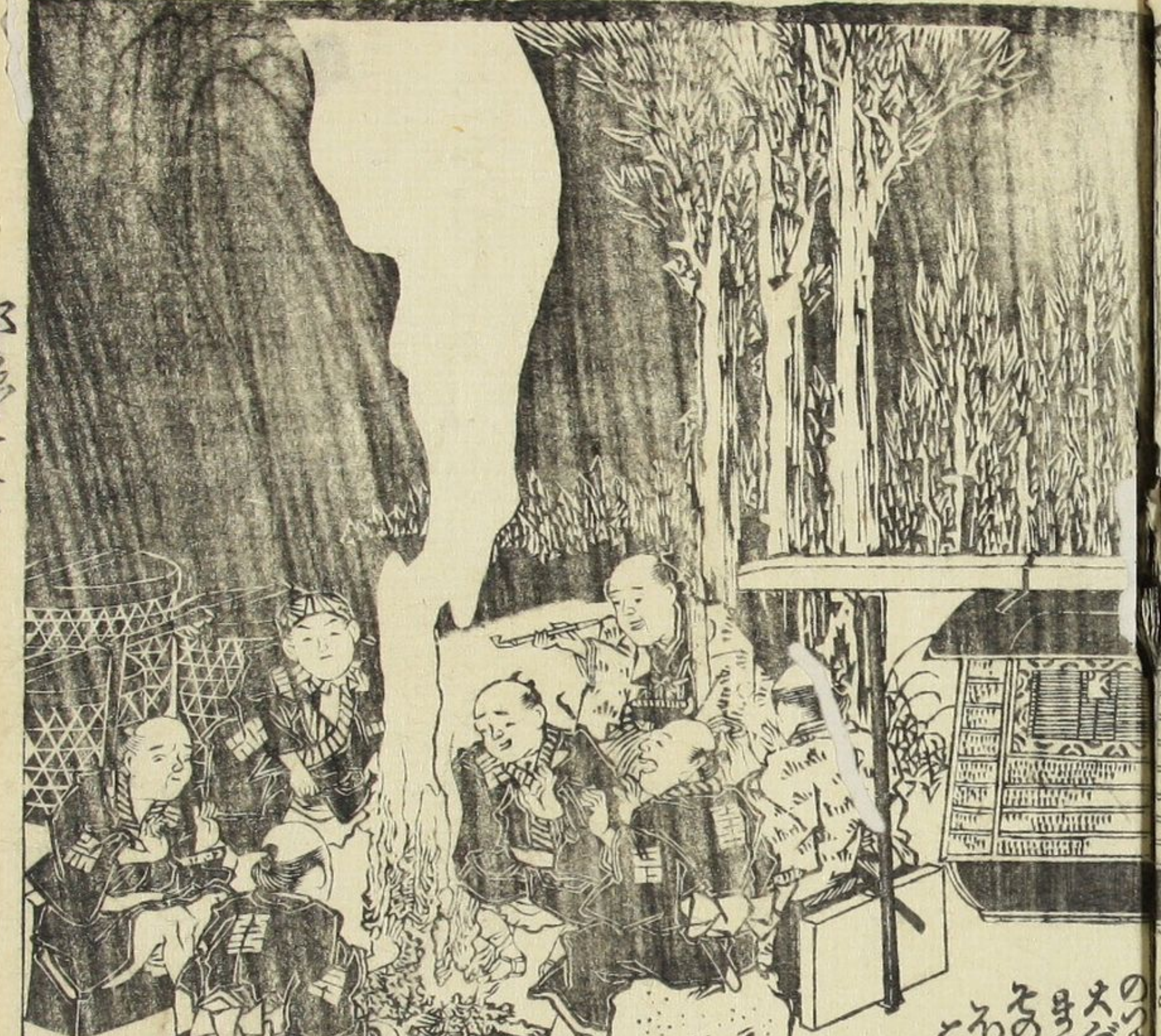
木島大明神  
 延永十年正月廿日  
 此の御祭に  
 参りては  
 神楽の舞  
 見物あり  
 御祈り  
 申されば  
 御利益無  
 量なりと  
 申されり  
 云々

大内政弘  
 七人の義塾と  
 なる所の筆者の  
 史の事なり  
 又とある所は  
 ちがひあり  
 景  
 左の御社  
 右の御社  
 御祈り  
 申されば  
 御利益無  
 量なりと  
 申されり  
 云々

木島大明神



この高台寺の雲龍窟は、大内氏に属するもので、その名は高台寺といふが、これは大内氏の菩提寺といふことが、この窟の裏に彫られた大内氏の墓の傍に、大内氏の御影の刻があり、その傍に大内氏の御説きの石があり、その石に大内氏の御説きの文が刻まれている。この窟は、大内氏の御説きの窟といふことが、この窟の裏に彫られた大内氏の墓の傍に、大内氏の御影の刻があり、その傍に大内氏の御説きの石があり、その石に大内氏の御説きの文が刻まれている。



大内氏の御説きの窟は、大内氏の御説きの窟といふことが、この窟の裏に彫られた大内氏の墓の傍に、大内氏の御影の刻があり、その傍に大内氏の御説きの石があり、その石に大内氏の御説きの文が刻まれている。この窟は、大内氏の御説きの窟といふことが、この窟の裏に彫られた大内氏の墓の傍に、大内氏の御影の刻があり、その傍に大内氏の御説きの石があり、その石に大内氏の御説きの文が刻まれている。



おはようございます  
あつちのハハの  
よりちのちのち  
ハハのちのちのち  
くじのちのちのち  
けりけりけりけり  
のちのちのちのち  
くちのちのちのち  
まのちのちのち  
まのちのちのち  
まのちのちのち  
まのちのちのち

清楚貨

のちのちのちのち  
のちのちのちのち  
のちのちのちのち  
のちのちのちのち  
のちのちのちのち  
のちのちのちのち  
のちのちのちのち  
のちのちのちのち

のちのちのちのち  
のちのちのちのち  
のちのちのちのち  
のちのちのちのち  
のちのちのちのち  
のちのちのちのち  
のちのちのちのち  
のちのちのちのち

おのちのちのちのち  
おのちのちのちのち  
おのちのちのちのち  
おのちのちのちのち  
おのちのちのちのち  
おのちのちのちのち  
おのちのちのちのち  
おのちのちのちのち

羊  
のちのちのちのち  
のちのちのちのち  
のちのちのちのち  
のちのちのちのち  
のちのちのちのち  
のちのちのちのち  
のちのちのちのち  
のちのちのちのち



おのちのちのちのち  
おのちのちのちのち  
おのちのちのちのち  
おのちのちのちのち  
おのちのちのちのち  
おのちのちのちのち  
おのちのちのちのち  
おのちのちのちのち



おのちのちのちのち  
おのちのちのちのち  
おのちのちのちのち  
おのちのちのちのち  
おのちのちのちのち  
おのちのちのちのち  
おのちのちのちのち  
おのちのちのちのち











# 梅蝶樓画柳亭著

備書 交来



## 其由縁鄙俣

十四編 十五編 十六編

並亭仙果著作  
梅蝶樓國貞画

錦昇 堂藏 板略 目錄

十勇士尼子の礎

三編 為永春水作  
四編 壽齋國貞画

兩夜鐘四谷雜談

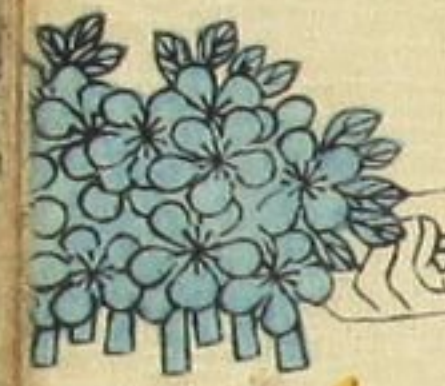
五編 河竹其水作  
六編 歌川國貞画

比奈乃都大内譚

初編 並亭仙果作  
二編 一勇齋國芳画

地本繪草紙問屋 江戸より多町惠比壽屋庄七板

理



十八編上



由

至  
至  
梓

作題曲豆風由





若 傷

十八編下

柳亭 作

國貞画



二夜目  
柳亭 著

真由縁

六通

新川  
國貞画

縁昇巻様



此南能  
於母の計  
十八篇  
下株

二世柳多紀  
梅嶽樓畫

あは比  
寸や



能言  
ども飛鳥  
と離れど画に

執行



種彦著

かきふる女はては後心  
動せ空可愛と唯一句の貴聲  
聞ぬの遺憾あり假令日と招く  
大相國車に衝立時平公でも演戲の  
演戲で頭も低ぶつ焼刃の須臾  
砍亦懐刀の即席の用小達ぬ  
いふにせん是悉實此物あり後  
精神も亦至る畢鏡影の如  
さよ源氏の作者と称揚てあれ此作主  
の男め大臣の家を小生とて大政と  
あくともせめての夏よ見女小飢寒あじめ  
人並の世を経る才覚あるは死小頭のあ  
かぬ布世屋小屈りのつも變らぬ裏店住  
居瑠璃色浅紫と化し小鉢の牽午子の  
露は筆を沾る是でも傍紫の作者  
と夷則初の四日愚癡と汗をよびて記

下株十八

うき婦〜らつをれす

あつらふ作のこい

さきさきのこい

ののよを

のりろ

六條准后御次郎君

香折之丞實ハ赤松柏之助

の巻也



曲豆園

鏡世りこの

たねせまき〜と

人せまき

いのよ忠信

中川と

〜人

三津世の前

薙髪〜て

寺内南の御殿小

はるをせたまふ

御法号

三乗禅尼とや〜まつる





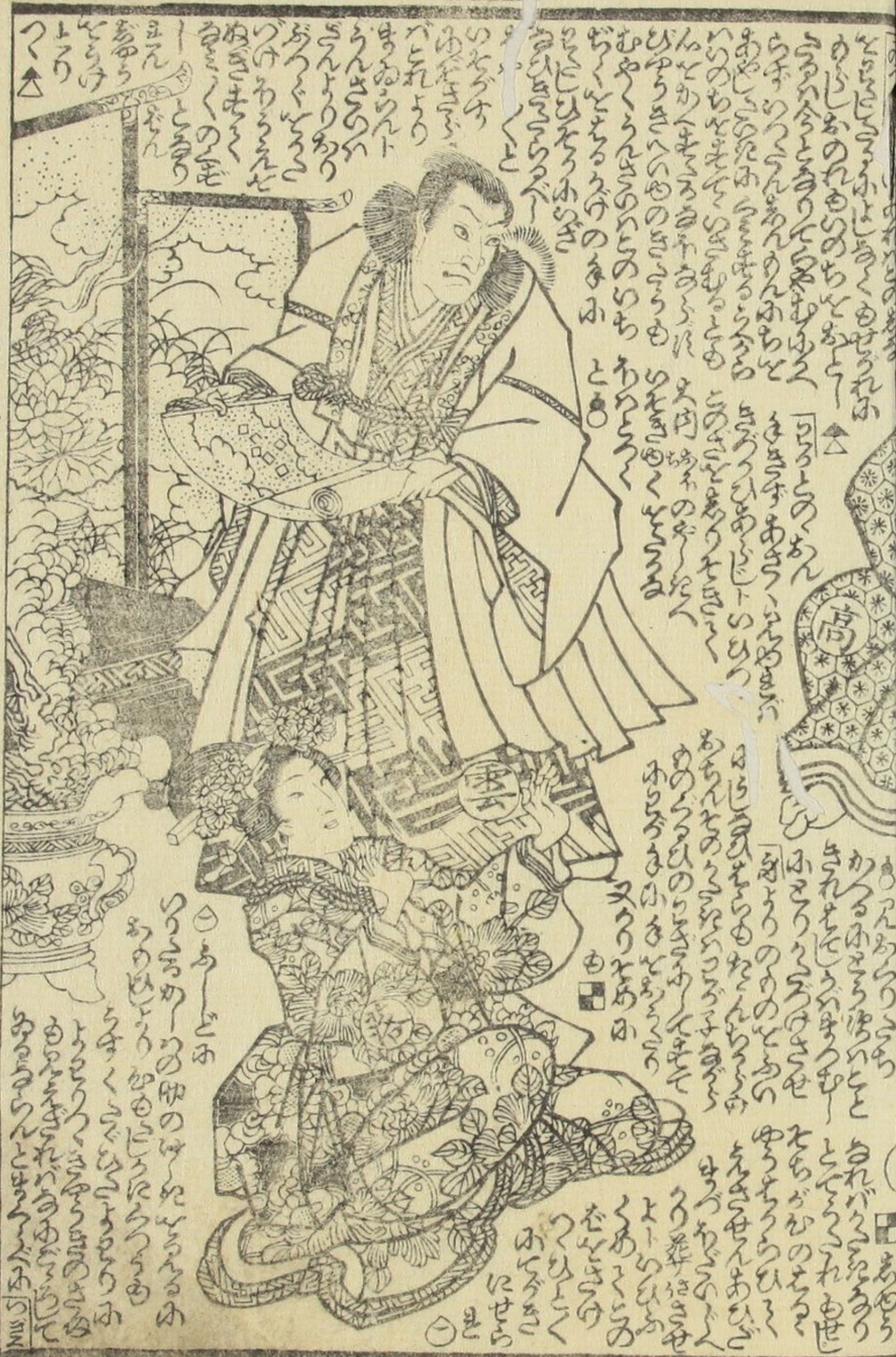
雲井丞氏仲一條の  
跡小落葉を訪ふ  
かへはよみぢふち  
秋をさすけや  
人かきき宿の梢



曲五國魚







那婦



那婦



ついでひさごう  
 びんをさき  
 びんをさき  
 びんをさき  
 びんをさき  
 びんをさき  
 びんをさき

あつちのあつち  
 あつちのあつち  
 あつちのあつち  
 あつちのあつち  
 あつちのあつち  
 あつちのあつち

左のせいのあつち  
 せいのあつち  
 せいのあつち  
 せいのあつち  
 せいのあつち  
 せいのあつち

あつちのあつち  
 あつちのあつち  
 あつちのあつち  
 あつちのあつち  
 あつちのあつち  
 あつちのあつち

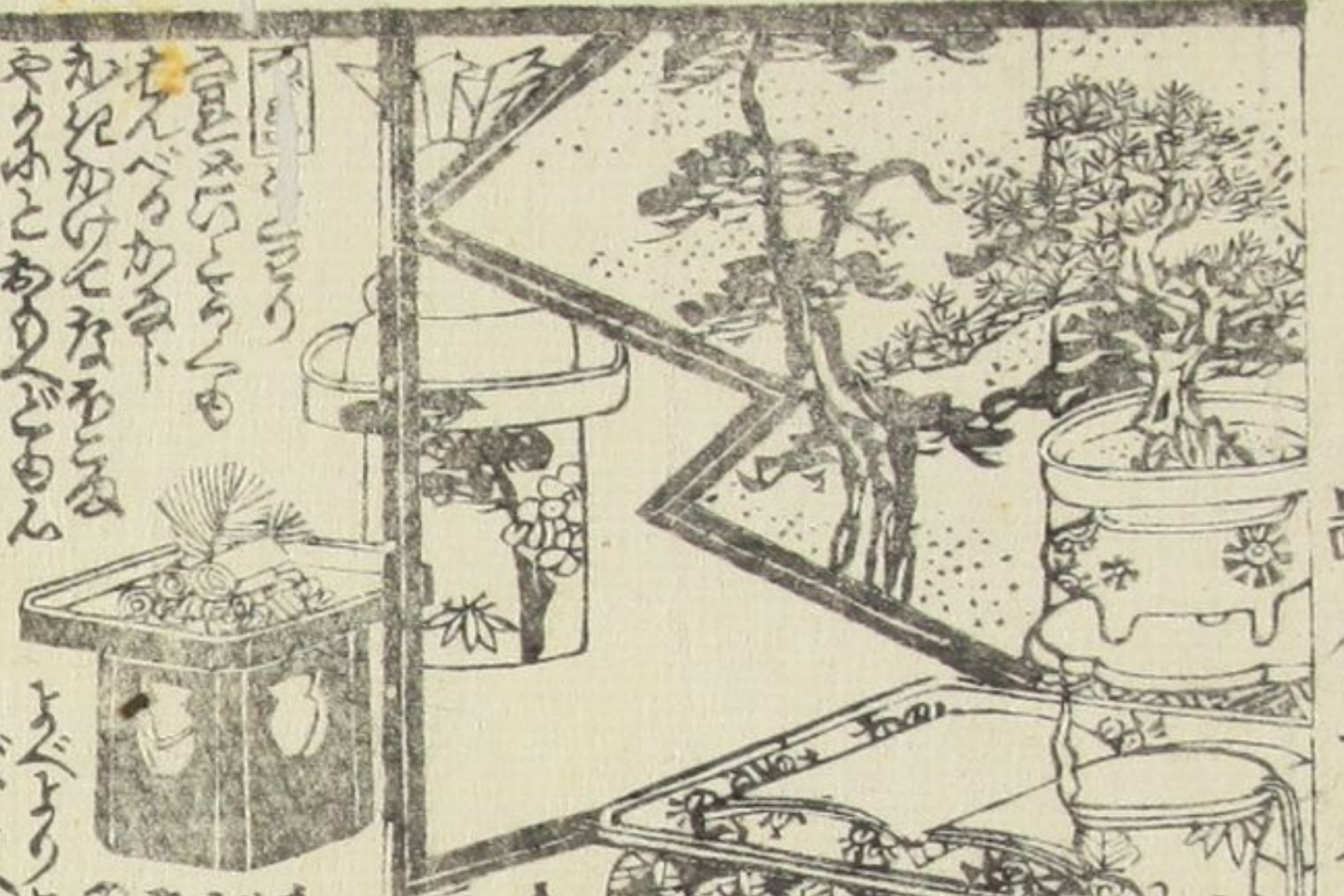
あつちのあつち  
 あつちのあつち  
 あつちのあつち  
 あつちのあつち  
 あつちのあつち  
 あつちのあつち







書信



かたがひのなまむら  
あつめとありども  
ゆせれめむらむら

まらむらむら  
まらむらむら  
まらむらむら



あつめとありども  
ゆせれめむらむら  
まらむらむら

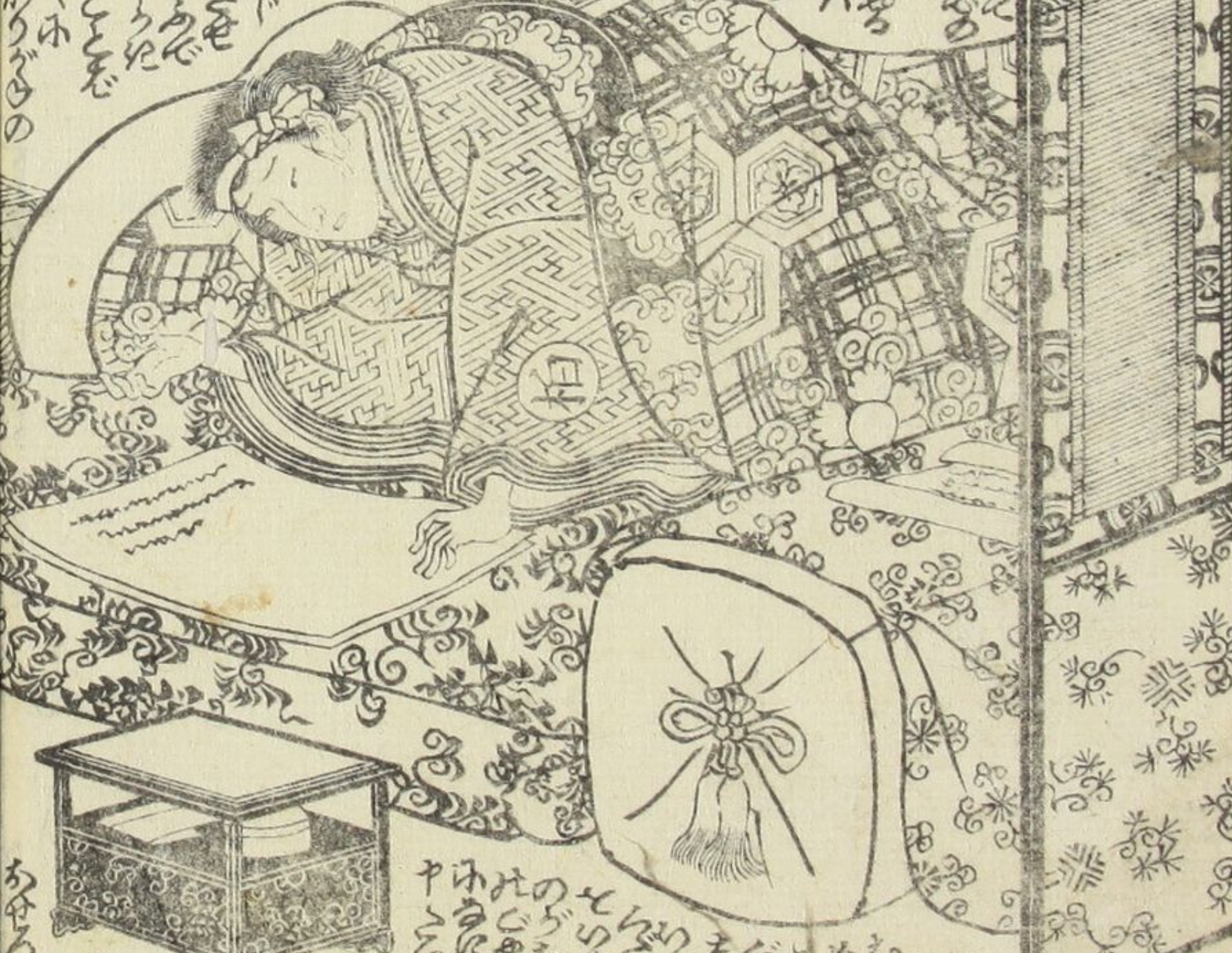
あつめとありども  
ゆせれめむらむら  
まらむらむら



あつめとありども  
ゆせれめむらむら  
まらむらむら



Handwritten text in the upper right section of the right page, written in vertical columns.



Handwritten text in the lower right section of the right page, written in vertical columns.

Handwritten text in the upper left section of the left page, written in vertical columns.



Handwritten text in the lower left section of the left page, written in vertical columns.



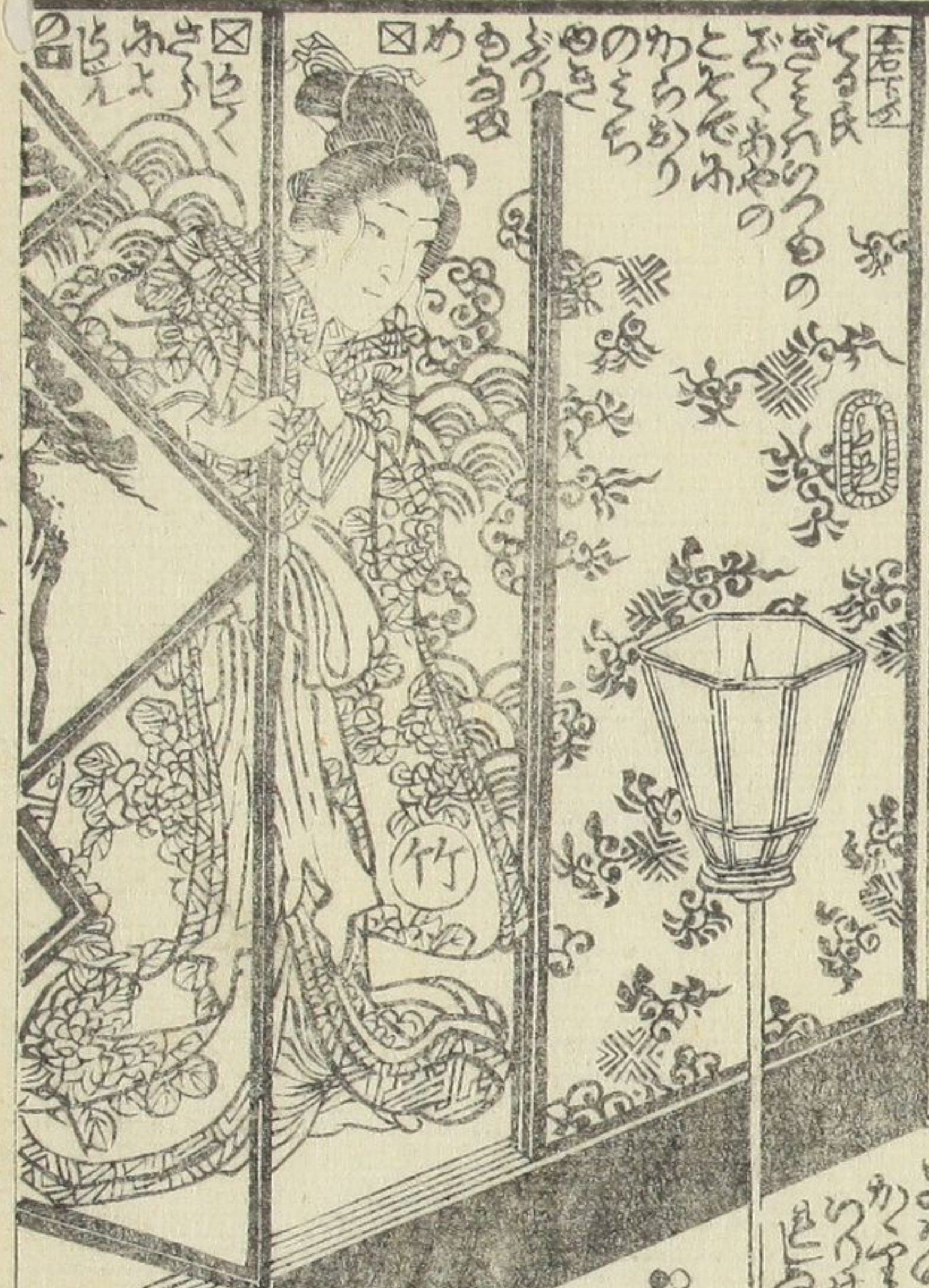












あまのついでに  
かきかへて  
あまのついでに  
かきかへて  
あまのついでに  
かきかへて  
あまのついでに  
かきかへて  
あまのついでに  
かきかへて



あまのついでに  
かきかへて  
あまのついでに  
かきかへて  
あまのついでに  
かきかへて  
あまのついでに  
かきかへて  
あまのついでに  
かきかへて



あまのついでに  
かきかへて  
あまのついでに  
かきかへて  
あまのついでに  
かきかへて  
あまのついでに  
かきかへて  
あまのついでに  
かきかへて





錦昇堂藏板新鐫目録

貞画

稻妻形怪鼠標子



種彦著

此の書は、作者の自叙傳である。作者の生い立ち、学問の経歴、そしてこの書が書かれた経緯が詳しく記されている。また、作者の思想や、当時の社会情勢についても述べられている。この書は、作者の自伝的な性格を強く示している。作者は、この書を通じて、自分の人生を振り返り、読者に教訓を伝えることを目指している。この書は、作者の自伝的な性格を強く示している。作者は、この書を通じて、自分の人生を振り返り、読者に教訓を伝えることを目指している。

種彦著

二十

備書  
交来

この書は、作者の自叙傳である。作者の生い立ち、学問の経歴、そしてこの書が書かれた経緯が詳しく記されている。また、作者の思想や、当時の社会情勢についても述べられている。この書は、作者の自伝的な性格を強く示している。作者は、この書を通じて、自分の人生を振り返り、読者に教訓を伝えることを目指している。この書は、作者の自伝的な性格を強く示している。作者は、この書を通じて、自分の人生を振り返り、読者に教訓を伝えることを目指している。

比翼  
裁縫  
仙亭  
仙果  
作

誠忠大星譚  
柳下亭種員作  
一陽齋豊國画

地帯綿繪同巻より取りて表紙に表わす

貞画

